

協議経過（論点）の整理

■目的

「上山市みらいの学校構想」の策定を進める上で、委員から複数回、同じ意見をいただき協議した論点について、本検討委員会の見解として合意形成を図るもの

1 複式学級

論点	①複式学級は増加していく見込みだが、複式学級の良い悪いがよく分からない。 ②複式学級にメリットもある事を踏まえて検討しなければならない。 ③統廃合のスピード感を大事にするときに、複式学級をどのような取扱とするか。 ※第4回委員会で意見交換（保護者・教職員・複式学級経験者の視点）
協議経過	第3回検討委員会 市民との意見交換会及びアンケート結果等の市民ニーズ分析を踏まえ協議した結果、望ましい教育内容の実現や課題解決のため <u>学校統廃合は避けては通れない</u> 。 第4回検討委員会 望ましい教育内容の実現や課題解決のために、 <u>適正な学級数（3学級）、学級人数（25人程度）</u> を確保・維持するため具体的に <u>学校統廃合の検討を開始する</u> 。
委員会の見解	統廃合の検討を進めることから、複式学級については解消に努める方針とする。

2 学級数・学級人数

論点	学級数は1学年3学級、学級人数は25人程度ではなく、より少ない人数の方がきめ細やかな対応となるのではないかな？
協議経過	第3回検討委員会 資料1 令和6年度の振り返り 令和6年度1年間かけて市民との意見交換会やアンケートを実施。調査対象や調査項目もより詳細・具体的に設定し、結果を数値化する等、内容を精査してきた。 第4回検討委員会 資料4 小・中学校統廃合パターンの検討 1学年3学級、学級人数25人程度の数値は、単にアンケートで回答割合が多かったということではなく、1年間ニーズの聴き取りを行い、教育と学校生活の質の向上、社会性等の育成や一定規模の集団になることで集団活動や多様な交流による成長支援に繋がるという理由を委員会で協議したうえでの結論である。
委員会の見解	小・中学校とも、1学年3学級、学級人数は25人程度を望ましい形とする。 ※ただし書で一定条件をつける事を検討〔資料4②構想（案）P15-16で別途協議〕

3 教職員数

論点	上山市独自で教職員を増員できるのではないかな。きらり学園のように小規模の学校、学級を増やしたら良いのではないかな。
協議経過	第3回検討委員会 資料3～5 小・アンケート調査結果の協議 教職員の配置は、法令（公立の義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律〔標準法〕）に基づき、児童生徒数・学級数に応じた配置となります。市独自の基準で配置できるものではありません。小規模のきらり学園も同じで、法令に基づいた教職員数であります。
委員会の見解	統廃合の検討を進めるうえで、児童生徒数、学級数の今後の推移を的確に捉え、法令に基づき適正な教職員数を配置・確保する。